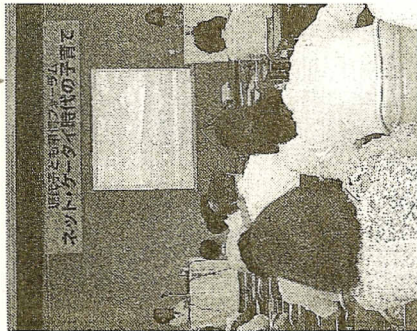


た。
 福島県教委の昨年の調査によると県内の携帯電話所有率は小6が21%、中6が35%で、高1は91%に達した。加納准教授は「もはや新しい子ども文化と認めるべきだ。保護者の前で少しずつ利

用させ、免疫を持たせた方がいいと指摘した。
 加納准教授は詐欺や出会い系サイトのトラブル、ネットいじめなどを紹介。フィルタリングなどの対策を奨励するともに、「ネットや携帯を使う目的、ルールについ

て親子間で十分話し合うべきだ」と強調した。
 フォーラムは県青少年育成県民会議の主権で、約160人が参加。パネル討論では、家庭の役割や学校での情報モラル教育の必要性などについて意見を交わした。



携帯電話などを子どもにどう利用させるかを考えたフォーラム

携帯の使い方
 親子で話そう
 福島でフォーラム

子どもの携帯電話所有率が高まる中、「ネット・ケータイ時代の子育て」こと題したフォーラムが10日、福島市で開か

れた。講演した山形大の加納寛子准教授(情報教育)は「携帯やインターネットを禁止しても、問題を陰湿化させるだけ。親が利便性と危険性を理解し、安全かつ適切に使えるよう教育することが大切」と呼び掛け